

平成26年度

事業報告書

社会福祉法人 三恵会

目 次

三恵会本部

特別養護老人ホーム きぼうの苑

障害者支援施設 あゆみ苑

ケアハウス 夢テラス

障害者支援施設 三恵ホーム

デイサービスセンター えぐも

児童福祉施設 十全保育園

特別養護老人ホーム ハートランド三恵

老人保健施設 リハビリステーション三恵荘

老人保健施設 希望の館

通所介護事業所 おいでんや

多機能型事業所 わくわくクラブ

放課後児童クラブ ともだちパ-ク

地域子育て支援拠点事業 にこちゃんパーク

地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ

グループホーム かがやき

児童福祉施設 中萩保育園

養護老人ホーム 慈光園

三 惠 会 本 部

常務理事 松尾 公子
本部長 神野 師算

平成26年度事業報告

平成25年度に法人設立40周年の節目を迎え、社会福祉法人を取り巻く環境が厳しく、ご利用者のニーズや地域の中で社会福祉法人の果たすべき役割も新たに求められるようになってきている中、平成26年度は、経営基盤の強化を図るため、「サービス」、「組織・職員」、「財務・コスト」プロジェクトチームを発足し、三本を柱とする経営戦略計画をスタートいたしました。「サービス」では、職種ごとの業務マニュアルの作成、「組織・職員」では、新人から指導職までの階層別研修、経営理念に沿った人材の確保等、職員教育の充実、「財務・コスト」では、財務指標分析を活用した情報の共有や予算編成システムの構築に向けて取り組みました。これらの計画を実践していく過程の中で、職員が自ら考え、行動し、改革していく姿勢が芽生え始めた1年でした。

職員教育にも力を注ぎ、接遇研修や階層別研修、外部研修の参加により、職員のコミュニケーション能力の向上と協調性、基礎的な知識から専門的な能力の向上が図れました。今後も、研修を通して、仕事へのやりがいを感じ、専門的な能力の向上や組織人としての成長の機会を継続的に得られるよう続けていきます。

中萩保育園は、3年間の集大成であり、安全かつ質の高いサービスの提供に努め、保護者の支持率が上がり、4年目は、三恵会カラーが自然に出せる土壌づくりができました。新居浜市より指定管理を受けている慈光園では、第三者評価を受け、業務改善が意識的に行われ、入所者支援の充実が図られてきました。また、節電に取り組むなど経費の削減に効果が大きく表れました。

新会計基準の移行については、完全な移行とはいえませんが、研修の機会を増やし知識の習得に励みます。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) サービスの改革

各種サービス提供マニュアルの作成では、6回のプロジェクトを開催し、サービス提供の品質管理やサービスの標準化を行うために、プロジェクト内に専門部会も設置し、3大介護である食事介助・入浴介助・排泄介助の業務マニュアルの見直しを行い、新人職員等の指導にも活用できるものを作成している。

リスクマネジメント（危機管理）実施体制の構築では、5回のプロジェクトを開催し、利用者への安全の配慮、未然の事故防止のため、法人内の事例検証や、リスクデータを報告しやすくするため、様式の見直し等環境の整備にも取り組みました。

(2) 組織・職員の改革

研修計画に基づき、接遇研修、若年層・リーダークラスなどの階層別研修、各団体が実施する法人外の研修に参加した。(研修計画を参照)

職員の採用について、例年より採用活動の時期や方法、活動範囲を見直し、職員の確保が困難な中、27年4月より19名の新卒者を確保できた。

(3) 財務・コストの改革

26年度は7回のプロジェクトを開催し、財務体質の改善をはかり、経営基盤を確立していくため、法人全体・各施設の財務状況の共有からはじめ、法人を単位とした予算編成システムの構築のため本部と施設の予算ヒアリングや、資金管理、人員適正化計画の策定に向けて、意見交換や試行的な実施をいたしました。

3. 研修計画

(1) 法人内研修

新任職員研修

4月1日～4月2日実施 新入職員11名

階層別研修

若年層向け研修 組織人としての考え方～基本行動の基礎～ 参加者23名

第1回 平成26年 9月25日

第2回 平成26年10月21日

第3回 平成26年11月20日

フォローアップ研修(平成25年度受講者の振り返り研修)

第1回 平成26年 9月30日 参加者25名

第2回 平成26年10月23日 参加者29名

第3回 平成26年12月 4日 参加者22名

リーダークラス研修～ 参加者26名

第1回 平成27年 1月21日

第2回 平成27年 2月25日

第3回 平成27年 3月25日

接遇研修会

第4回 平成26年 4月22日 参加者 178名

(第1回～第3回は平成25年度で実施 参加者387名)

三恵会研究発表会

第7回三恵会研究発表会を、平成27年 2月28日に開催。
各施設の代表がこれまでの業務事例や症例研究内容をもとに発表を行った。
発表演題 14題 ・ 参加者 136名

(2) 法人外研修

厚生労働省平成26年度老人保健健康増進等事業 人材確保戦略検討研修
1名参加

1月17日～ 1月18日

2月14日～ 2月15日

3月14日～ 3月15日

全国社会福祉法人経営者協議会主催

- ・社会福祉法人 主任/係長講座

7月 7日～ 7月 8日 1名参加

- ・社会福祉法人 人材マネジメント講座

9月24日～ 9月25日 1名参加

- ・社会福祉法人経営者研修会 ～経営管理コース～

11月19日～ 11月21日 1名参加

- ・監事専門講座

11月27日～ 11月28日 1名参加

- ・社会福祉法人経営者研修会 ～サービス管理コース～

12月16日～ 12月18日 1名参加

全国社会福祉協議会主催

- ・施設長実学講座

1月25日～ 1月26日 2名参加

全国老人福祉施設協議会

- ・これからの介護と福祉を守る1000人集会

9月25日 1名参加

中・四国地区社会福祉施設経営者協議会主催

- ・中国・四国地区社会福祉法人経営者セミナー

7月17日～ 7月18日 2名参加

四国地区社会福祉法人経営者協議会主催

- ・平成26年度四国地区社会福祉法人経営者協議会実践報告会

2月20日 1名参加

愛媛県社会福祉施設経営者協議会主催

- ・法人理事長研修会

9月 9日 5名参加

愛媛県社会福祉法人経営者協議会主催

- ・愛媛県青年経営者会

6月26日 2名参加

2月18日 2名参加

総合福祉研究会主催

- ・社会福祉法人新会計基準対策セミナー

9月17日 1名参加

- ・監事監査チェックリストの事例研修会

1月14日 1名参加

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

施設長 筒井 孝昭

平成26年度 事業報告

1. 経営方針

平成26年度は、健全な施設経営への改善のため、数値(利用)実績を上げることが最優先とし、各部署が具体的な目標を設定し、達成に向けて努力をした。入所部門については、目標稼働率を超える数字となった。その他の部門では目標数値こそ超えなかったものの、前年度と比べて軒並み10%以上アップし、僅かではあるが黒字の収支差益を計上した。

また、接遇マナーの改善に努め、ご利用者、ご家族に対し、笑顔での接遇対応とコミュニケーションに努めた。ご利用者の情報を共有し、説明力アップに努めると共にご利用者、ご家族からの要望や苦情等については真摯に対応し説明を行うよう努めた。

地域における在宅支援には、他施設や包括支援センター、訪問介護事業所等々他サービス事業者との情報交換や緊密な連携が不可欠の要素である。ご利用者の在宅での健康な生活を維持支援するための介護計画の立案、担当者会、サービス提供を行なった。

入所部門では高齢化の進展が著しく、要介護度が4、5の高齢の入所者が大幅に増えている。認知症による徘徊等によりベッドや車椅子からの転落やトイレでの転倒による打撲、骨折等のリスクも大きくなっており、今年度は多くの介護事故により、ご利用者、ご家族に大変ご迷惑をおかけした。原因の検証や職員への指導・研修を行い、再発防止を職員全員に徹底した。今後これらのリスクに対し最大限の取り組みを行い、事故防止に努め、入所者の安全で安らかな生活をサポートできるよう努力していく所存である。

感染症については、一部ご利用者にノロウイルス、インフルエンザの感染者が出たため、職員が一丸となって対策に取り組み、どちらも短期間で終息させることが出来た。来年度以降も油断することなく感染症対策を実施したい。

職員募集では介護職、調理員等の人材確保のため様々な対策を行ったが、十分な採用には繋がらなかった。人材が集まってくる施設となるよう、継続して求人対策に取り組んでいきたい。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

接遇マナーの改善と実践

苦情、介護事故等への速やかな対応と対策

災害(火災・地震等)への取り組みと訓練

家族との信頼関係の構築

利用者への最適サービスの提供

(2) 「確実な知識と技術」の修得

各部署の連携強化による施設チーム力のアップ

介護事故、苦情等の原因分析と対策

認知症の理解と対応

外部研修の活用と知識・技術の専門性の向上

高齢化・虚弱化が進む利用者の特性把握と危険防止

- (3)「堅実な経営」への取組み
 利用者を取り巻く環境のリスクマネジメント
 事故等発生時の県・市・関係機関等への速やかな報告と連携
 空室期間の短縮を図る効率的な入所
 人材の確保と定着
 設備機器のメンテナンス及び修繕

3. 研修計画

(1) 施設内

三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他
 自主研修

4月	身体拘束廃止について	10月	リスクマネジメントについて
5月	食中毒予防について	11月	在宅サービスの理解について
6月	メンタルヘルスについて	12月	ターミナルケアについて
7月	リスクマネジメントについて	1月	プライバシー保護について
8月	認知症ケアについて	2月	虐待防止について
9月	感染症予防について	3月	褥瘡防止について

(2) 施設外

老人福祉施設協議会関係

全国 四国 愛媛県 東予地区 各協議会 四国地区老人福祉施設大会
 栄養士関係 愛媛県 東予地区 新居浜市 各栄養士研修 特定給食施設研修
 新居浜市病院栄養士 栄養指導者研修 栄養ケアマネジメント研修
 介護職員関係 認知症 指導者養成研修 介護技術向上研修
 介護支援専門員 愛媛県 新居浜市 県社協主催研修

4. 行事計画(年間)

4月	合同花見	10月	太鼓祭り 社会見学 防火訓練
5月	家族会総会 機関誌発行	11月	文化祭 紅葉見物 焼き芋
6月	運動会 神事 菖蒲見学	12月	忘年会 お餅つき クリスマス 大掃除
7月	そうめん流し ワークキャンプ	1月	お正月 初詣 新年会 機関誌発行
8月	慰霊祭 盆踊り ピアガーデン	2月	節分 バレンタイン
9月	敬老会 観月会 機関誌発行 毎月第4金曜日 居酒屋	3月	ひな祭り ホワイトデー 防火訓練 各クラブ活動 定期的実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

交流事業 やすらぎの郷文化祭 西の土居花見 各自治会活動・公民館活動
 校区運動会・文化祭への参加と協力(久保田・滝宮・金栄・西の土居)
 施設見学の受入れ、ふれあいサロンの実施(金栄、西の土居、政枝、
 久保田、若水) 校区ソフトボール大会

(2) ボランティア活動

職員ボランティア活動

地域清掃 生き生きフェスティバル 地元自治会活動への協力

ボランティアの受入

新居浜工業高等学校 新居浜商業高等学校 新居浜南高等学校 天理教
金栄福祉ボランティア団体 金栄婦人会 若く明るく歌を歌う会
語り部演奏 琴演奏 ハープ演奏 少林寺拳法 マンドリン演奏 大正琴演奏
絵手紙教室 習字 フラダンス クラシック演奏 昔話披露 三味線演奏
フォークダンス 口腔ケア衛生管理

(3) 実習生の受入

学校等

十全看護専門学校 松山東雲短期大学 河原医療福祉専門学校
新居浜南高等学校 四国中央医療福祉総合学院 新居浜特別支援学校
神戸常磐大学

体験学習 新居浜市役所 教員免許特例法による介護体験

中高生ワークキャンプ 松山大学

養成機関（ヘルパー）シルバー人材センター ビーイング

6. 入所利用者状況 (平成27年3月31日現在)

(1) 年齢

	59以下	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100以上	合計	平均
男	0	1	1	0	3	4	6	4	1	0	20	84.4
女	0	0	2	5	7	22	29	21	11	2	99	86.5
合計	0	1	3	5	10	26	35	25	12	2	119	86.2

(2) 要介護度

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護度平均
男	0	1	4	5	10	4.20
女	4	9	15	24	47	4.02
合計	4	10	19	29	57	4.05

障害者支援施設
あゆみ苑

施設長 筒井 孝昭

平成26年度 事業報告

1. 経営方針

平成26年度目標として「安定した経営と人材育成」を掲げた。ご利用者の高齢化による入院や介護保険への移行に備え、新規利用者の獲得のため相談支援事業所や各サービス事業所との情報交換等により連携を強化するなどの様々な取り組みを行った。また、特別支援学校との関係強化をはかり積極的な受入を行った。

人材育成においては、介護技術や職員資質の向上、接遇マナー改善のための各種勉強会を実施し、ご利用者、ご家族に対する笑顔での接遇対応とコミュニケーションに努めた。ご利用者の情報を共有し、ご家族からの要望や苦情等については真摯な対応と説明を行った。

また、感染症対策については、手洗い・うがい・マスク等の励行によりご利用者、職員ともに無事1年を過ごすことができた。その他、事故防止対策、地域との連携による防災対策、利用者・職員の心の健康と安全を守るためのメンタルヘルスケアなどの総合的なリスクマネジメントについて、職員の意識を高め、様々な対策を推進した。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- 利用者の自立促進と生活向上のための支援
- 接遇マナーの改善と実践
- 地域社会との交流や、繋がりに向けた積極的な関わり
- 職員と利用者の信頼関係の構築
- 各関係事業所との連携による最適サービス提供

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- 危機管理への意識向上に向けた継続的な勉強会の実施
- リスクの減少に向けた報告・連絡・相談の徹底
- 職員に対し制度への理解と情報共有の徹底
- 介護技術や職員資質向上のための研修の実施

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- 稼働率や利用人数の目標数値に向けた取り組み
- 適性配置人員の検討や適正な支出への取り組み
- 働きやすい職場環境に向けた取り組み
- 人材の確保と定着

3. 研修計画

(1)施設内(きぼうの苑と合同)

三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

自主研修

4月	身体拘束廃止について	10月	リスクマネジメントについて
5月	食中毒予防について	11月	在宅サービスの理解について
6月	メンタルヘルスについて	12月	ターミナルケアについて
7月	リスクマネジメントについて	1月	プライバシー保護について
8月	認知症ケアについて	2月	虐待防止について
9月	感染症予防について	3月	褥瘡防止について

(2)施設外

中四国身体障害者療護施設協議会施設長会(研修会)・施設職員研修大会

愛媛県身体障害者療護施設協議会施設長会・施設職員研修会

愛媛県障害者相談支援従事者研修

愛媛県障害程度区分認定調査員研修

通所施設直接処遇職員研修会、サービス管理責任者研修

4. 行事計画(年間)

4月 花見 公共乗り物での外出

5月 日帰り旅行 街中ツアー 愛媛県障害者スポーツ大会 電車でゴー

6月 日帰り旅行 紫陽花見学 合同運動会

7月 七夕 花火 ビアガーデン(施設内外) 素麺流し 映画

8月 慰霊祭 盆踊り カラオケ大会 映画 帰省の奨励

9月 日帰り旅行 観月会

10月 日帰り旅行 地方祭 防火訓練 帰省の奨励 重信車いすマラソン

11月 文化祭 紅葉狩り 街中ツアー

12月 クリスマス会 忘年会 餅つき 年末年始の帰省の奨励

1月 初詣 書初め 新年会 料理

2月 節分 バレンタイン クイズ王決定戦

3月 ひな祭り 運動会 防火訓練 書類整理

*定期行事: 買い物、外出、買い物訓練、誕生者外食、居酒屋(第4金曜)、陶芸、お茶会
介護教室、フラワーアレンジメント、料理教室

*クラブ活動: 習字クラブ(第2・4火曜)、生花クラブ(第3木曜)

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1)地域交流

やすらぎの郷文化祭、施設見学の受け入れ、他施設行事への参加、外出行事による社会参加、来苑ボランティアとの交流、校区芸能発表会、校区運動会、校区文化祭、校区ソフトボール大会、校区ケアネットワーク

(2) ボランティア活動

職員ボランティア活動

地域清掃、地元自治会活動への協力、生き生きフェスティバル

ボランティアの受け入れ状況

愛媛県立新居浜工業高校、愛媛県立新居浜商業高校、愛媛県立新居浜南高校、天理教、金栄福祉ボランティア団体、金栄婦人会、語り部演奏、琴演奏、ハーブ演奏、若く明るく歌を歌う会、少林寺拳法、マンドリン演奏、大正琴演奏、絵手紙教室、習字、フラダンス、クラシック音楽演奏、口腔ケア衛生管理、昔話披露、三味線演奏、フォークダンス披露

(3) 実習生の受け入れ

< 学校関係 >

今治明德短期大学、松山東雲短期大学、河原医療福祉専門学校、四国中央医療福祉学院

6. 利用者状況 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

(1) 年齢 ()・・・入所支援

	19 以下	20 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~ 65	66 以上	合計	平均
男	3 (0)	3 (0)	2 (0)	5 (2)	10 (2)	8 (3)	5 (5)	36 (12)	52.4 (61.0)
女	4 (0)	1 (0)	1 (1)	4 (0)	8 (2)	9 (2)	3 (3)	30 (8)	48.9 (59.1)
合計	7	4	3	9	18	17	8	66	50.8

(2) 障害者程度区分 ()・・・入所支援

	1	2	3	4	5	6	合計	平均
男	0 (0)	3 (0)	7 (2)	6 (0)	6 (4)	15 (6)	37 (12)	4.6 (5.2)
女	0 (0)	0 (0)	10 (2)	4 (1)	5 (2)	10 (3)	29 (8)	4.5 (4.8)
合計	0	3	17	10	11	25	66	4.6

ケ ア ハ ウ ス
夢 テ ラ ス

施設長 筒井 孝昭

平成26年度 事業報告

1. 経営方針

平成26年度は「ご利用者個々のニーズに合わせたサービスの提供による利用の長期化及び入退きの円滑化」を目標に掲げたが、比較的に入退居者が少なく、ほぼ、定員数を満たし、安定した施設運営が行えた1年だった。

ただ、入居者の方々の高齢化が進んでおり、身体面、精神面の状態低下による突然の思わぬ病気の発覚やADLの低下等が見受けられるご利用者が増加してきた。個々の状態に合わせた生活の継続ができるよう支援に努め、必要に応じてご家族や関係事業所との連携を図りながら、在宅サービス利用の手配等を行い、長期利用維持に繋げている。

今後ご利用者が高齢化、虚弱化しても、少しでも長期の生活(利用)ができるよう、施設の環境整備、職員の知識や技術の向上に努めながら、安定した施設運営を目指していきたい。

あわせて、施設の特徴をつくり、幅広く入居希望者を確保するとともに、入居者の皆様が日々安心して楽しく生活できるよう支援していきたい。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1)入居者の高齢化・多様化に合わせた支援の充実

利用者個々の心身の状態を把握し、健康の維持・増進に努めた。

関係機関・職種と情報共有に努め、在宅サービスの利用などの調整・提供を図った。

行事への参加や外部との交流を通じて、入居者の心身の充実を図った。

(2)利用者が安心安全で快適に過ごせる生活環境の整備と施設づくり

日頃からの入居者との関わりや茶話会等を通じて、個々のニーズを把握することに努めた。

特に、食事に関しては、関係部署と連携して改善を図り、献立に反映させるよう努めた。

利用者が現在の生活を維持できるよう、危機管理に努め、リスクの軽減に努めた。

既存設備の点検や修繕を随時実施し、入居者がより安心、安全に生活できるよう生活環境の改善等を行った。

(3)入居者の確保

新規入居者確保のため、パンフレットやホームページなどを活用して広報活動を行なった。
施設見学者、実習生、ボランティア等に対し施設の概要をわかりやすく説明・PRし、入居者確保に繋がるよう努めた。

他事業所のケアマネ等との情報交換を通じて、入所希望者の募集・確保に努めた。

3. 研修計画

- (1) 施設内...感染予防研修、職員勉強会(毎月)の実施、接遇研修、認知症研修、食中毒予防、リスクマネジメント、認知症ケア、メンタルヘルスケア他
- (2) 施設外...全軽協四国ブロック研修会他への参加

4. 行事(年間)

ケアハウス行事

茶話会 誕生会 買物クラブ シャクヤク見物 そうめん流し 花火 敬老会

上部乳児保育園交流会 忘年クリスマス会 新年会 節分・豆まき イチゴ狩り

やすらぎの郷行事参加

なかよしクラブ 花見 太鼓台見物 運動会 神事 ビアガーデン 慰霊祭・盆踊り

ハートランド・三恵荘夏祭り 少林寺拳法交流会 観月会 防災・防火訓練 文化祭

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

・地域公民館行事、上部乳児保育園 各種ボランティア団体交流 地域太鼓台

(2) ボランティア、実習生

・ケアハウスの事業、業務の説明、施設見学等に随時応じ、利用者との交流

6. 入所利用者状況 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

(1) 月別利用者数 (各月 1 日現在) 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	131
女	14	16	17	17	17	16	16	17	17	17	17	17	198
合計	24	27	28	28	28	27	27	28	28	28	28	28	329

(2) 月別居室稼働率 (各月 1 日現在) 室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2F(室)	12	12	13	13	13	12	12	13	13	13	13	13	152
3F(室)	11	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	154
合計	23	25	26	26	26	25	25	26	26	26	26	26	306
稼働率 (%)	88.5	96.2	100	100	100	96.2	96.2	100	100	100	100	100	平均 98.1

(3) 入居者年齢 人 歳

	69歳以下	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上	合計	平均
男	0	0	2	1	5	3	11	86.2
女	0	1	2	6	3	5	17	84.8
合計	0	1	4	7	8	8	28	85.4

(4) 要介護認定状況 人

	非該当	要支援	要支援	要介護1	要介護2	要介護3~5	合計
男	2	1	1	4	3	0	11
女	3	4	2	7	1	0	17
合計	5	5	3	11	4	0	28

障害者支援施設
三 恵 水 一 ム

施設長 渡部 雅人

平成26年度 事業報告

1 基本方針について

障害者基本法の理念に沿い、障害者が人間らしく生き、暮らすことのできる社会の実現へ向け、障害者総合支援法の定める障害福祉サービスを実施した。

事業は、「生活介護・施設入所支援」は定員70人、「短期入所」及び「地域生活支援（日中一時支援）」は合わせて定員4名の規模で実施し、施設の運営は、利用者一人一人が安心して心豊かな生活が送れるよう、その尊厳と人間性、自己決定を尊重すること、利用者の真のニーズに基づく良質なサービスを提供すること、地域に愛され、地域から信頼される開かれた施設とすることを基本として行った。

26年度の特記事項

退所者とその補充の間の空白日数の減少

25年度、退所者5人、補充入所者4人、補充までの空白期間平均60日

26年度、退所者2人、補充入所者3人、補充までの空白期間平均48日

また、地域福祉への貢献の観点から、「指定特定相談支援事業所」を、26年10月に設立した。相談支援専門員1名を配置し、当ホームの入所者に加え、在宅障害者のサービス利用計画の策定を支援した。

計画策定支援件数	20件
三恵ホーム入所者	11件
在宅障害者	9件
モニタリング件数	24件
三恵ホーム入所者	17件
在宅障害者	7件

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 健全な経営体制の確立

支出のきめ細かな節約

- ・ 重度障害者加算の申請、及び短期事業の利用者の増加などで増収となった一方、支出において、設備計画、物品購入計画を再検討、光熱水費の徹底管理等により節約を行った。

職員の能力開発

- ・ 養成研修への参加により喀痰吸引を行える生活支援員1名を新たに確保できた。現在で4名の介護福祉士が認定証の交付を受けている。

職員の接遇マナーの強化

- ・ 前年度に接遇研修で学んだことを継承し、日々の業務の中、意識を高めながらイメージアップに努めた。利用者から以前より良くなってきていると評価をいただいた。

(2) 利用者の思いを尊重した支援

利用者の今一番の希望・願いを実現するための個別支援計画の作成・実施

- ・ ユニット職員によるアセスメントと日頃の関わりの中から、利用者の希望・願いをよりきめ細かく引き出せるようにし、それを個別支援計画に反映させた。個別支援計画は、毎月評価を実施して、サービスの向上に努めた。

利用者がより楽しく、より充実した生活を送るための日中活動への積極的参加の支援

- ・ 日中活動では、要望の多いカラオケや映画鑑賞の回数を増やして楽しんでいただいた。また、残存機能を活用したダンスでは、野外イベントに参加した。これらにより、モチベーションの向上とQOLの向上に資することができた。

利用者個々の考え、思い、生活スタイルに合わせた支援

- ・ 利用者様一人一人に主眼を置き、個々の生活スタイルに合わせた日常的な支援が行えるよう、職員が密な関係を保ち、ご本人の意向を大切にされた支援に努めた。

(3) 利用者が安心して過ごすことのできる施設づくり

利用者やご家族への情報の提供と共有

- ・ 制度の内容や変更の有無、施設での対応方法等を、利用者及びそのご家族に、その都度、文書の送付や掲示、電話、面会時の説明等により、提供し、共有を図った。

危機管理意識、リスクマネジメントの徹底

- ・ 事故やヒヤリハットは、直ちにご家族へ報告し、対策もご報告して、事故の再発防止に努めた。また、面会時には、利用者の近況をお伝えし、ご家族との信頼関係の構築に努めた。

計画的リハビリテーションの実施

- ・ 3ヶ月毎に、場合によっては随時内容の見直しをするとともに、個別リハビリへの声掛け、誘導を随時行った。

栄養マネジメントを活かした、安全・安心で美味しく楽しい食事の提供

- ・ 嗜好調査の結果や給食委員会での利用者の意見を取り入れ、栄養マネジメントを活かした食事を提供した。また、利用者個々人の栄養摂取量や食形態に合わせた食事を提供し、栄養状態の悪化や疾病の重症化の防止、健康の維持に努めた。

感染症予防対策の強化

- ・ 感染予防の為、インフルエンザワクチン接種を11月・12月に実施した。
- ・ 施設内感染情報は、レポートに取りまとめ施設内に周知するとともに、委員会で効果的な予防が行われるよう、常に状況分析を行い、対策を立てるよう努めた。

利用者の口腔衛生を目的とした歯科・口腔健康検診の実施

- ・ 利用者の口腔衛生を目的とした愛媛歯科口腔保険センターの歯科医師による歯科検診を実施した。また、口腔ケアや歯の治療の必要な方には、2次検診を実施した。

衛生管理の情報提供と意識付けの強化

- ・ 労働安全衛生法の規定に基づき、職員の健康管理を行い、また衛生的な業務環境にするため、衛生管理委員会から情報発信を行った。

(4) 介護サービスの質の向上

研修会への積極的参加、専門的な知識と技術の向上

- ・ 必要に応じて、外部研修、三恵会の研修、施設内の研修に積極的に参加し、専門性の向上に努めた。

各班間の連携の強化

- ・ 各種会議や申送りにて情報交換や情報の共有を図り、各部署間の連携を密にした。

関係機関・各種団体・施設間とのネットワークの充実

- ・ 各行事の実施にあたり、ボランティアの依頼や関係団体等と連携を密にして、円滑に行事を実施するよう努めた。
- ・ 利用者の入退所や新規の利用希望について関係機関と連絡をとり、適切な対処方法についての協議、受入の日程調整等を行った。

研究発表への参加

- ・ 26年度は職員の中途退職等による人員不足のため、発表できるまでに至らず、参加できなかった。

(5) 地域に愛され、信頼される開かれた施設

短期入所及び日中一時支援事業の積極的な受入れ

- ・ 短期入所利用実績 116件 597日間の受入れを行った。
- ・ 日中一時支援利用実績50日間の受入れを行った。
- ・ 短期入所・日中一時支援の稼働率の向上
44.3% (25年度42.3%)

利用者のご家族や地域の方々への日中行事への協力の呼びかけ

- ・ 施設内外で地域の皆様と交流ができるよう、地域交流委員会を中心に地域交流行事(ふじ祭り、盆踊り)の企画を行い、地域との繋がりの強化に取り組んだ。

ボランティアの積極的な受入れ

- ・ ふじ祭りや盆踊りの時には、実習受入校や各種団体にボランティアの依頼を行い、協力をしていただいた。
- ・ ボランティアの団体や個人の増加と活動の継続を目指して、ポスターを作成し、地域の方への呼びかけを行った。

職員のボランティア活動

- ・ 地区の春の井出清掃と秋の道づくりに参加した。
- ・ 国道11号歩道の生垣の清掃 隔月1回で6回実施した。

3 研修

(1) 施設内

年間計画に基づき、12回実施した。延べ338人が参加した。

(2) 施設外

全国研究大会、経営セミナー

中四国施設長研修会、事務管理研修会、支援職員研修大会、職員研修大会

県内職員研修会、サービス管理責任者研修会

職種別専門研修会

三恵会本部主催の職員研修

4 行事

4月 お花見会、地域交流ふじ祭り

5月 愛媛県障害者スポーツ大会

6月	ナイスハートふれあいのスポーツ広場東温大会
7月	あゆみ会長杯カラオケ大会
7・10月	みんなでランチ
8・2月	防災訓練(地震・土砂災害想定、火災夜間想定等)
8月	地域交流三恵盆踊り大会
10月	重信リバーサイド車いすコスモスマラソン
12月	餅つき大会、あゆみ会忘年会、クリスマス会
1月	新春ゲーム大会
2月	カラオケ大会、(節分豆まき インフルエンザで中止)
4月~12月	個別外出

5 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流事業の実施

地域交流ふじ祭り	320名
地域交流三恵盆踊り大会(愛媛県との共催)	400名
東温市身障協会との交流	10名
川内保育園との交流	32名

(2) ボランティアの受入れ

- ・川内町ともしび会 (46名) ・創価ボランティア(45名) ・川内町婦人会 (9名)
- ・HATACHIの会 (21名) ・傾聴ボランティア(31名) ・伊予銀行川内支店(8名)
- ・愛媛医療福祉専門学校(15名) ・今治明德短期大学 (3名) ・聖カタリナ大学 (1名)
- ・十全附属医療学院 (5名)

(3) 実習生の受入れ

- ・愛媛医療福祉専門学校 ・松山東雲短期大学 ・聖カタリナ大学
- ・松山城南高校(福祉科) ・愛媛大学

デイサービスセンター
えぐも

施設長 渡部 雅人

平成26年度 事業報告

1 経営方針

(1) 通所介護事業

えぐもが立地する東温市の東南部では、人口の減少に伴い、高齢者も減少傾向にある。このため、通所介護事業の利用者は、長期に亘って漸減傾向にある。

こうした中、当施設独自のサービスの内容を関係機関に積極的にPRし、新規利用者の確保に努めた。サービスの内容についても、利用者のアンケート調査の結果に基づき、利用者個々の要望に応じたサービスを提供したほか、残存機能の低下防止に向けた機能訓練を実施した。

この結果、26年度の契約者数は、新規契約9人、中止13人で、差引4人の減にとどまった。また、年間の延べ利用者数も、25年度6332人に対し26年度6052人で、差引で280人、4.4%の減にとどまった。

(2) 居宅介護支援事業

利用者及び御家族の信頼に応えられるようきめ細かな支援に努めた。その結果、利用者は、新規契約24人、中止14人で、差引10人の増となった。年間のケアプランの作成延べ人数も、25年度535人に対し、26年度652人で、差引117人、21.9%の増加となった。

(3) えぐも全体

経常活動による収支差額は、建物建設資金借入金返済が25年度で終了したこと、職員一人一人が危機感を持って経費削減に努めたことにより、黒字を回復できた。

しかし、通所介護事業で厳しい経営環境が続いているため、事業所全体の将来像に関する検討を行った。その結果、当面は、利用者のニーズに沿った魅力あるサービスを導入し、利用者の確保に努力することとなった。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 新規利用者の確保

- ・自社のサービスメニューの各関係機関への紹介に努めました。
- ・地域住民との接点の場を多く持ち、新規利用者情報の収集に努めました。

(2) サービスの質の向上

- ・自社独自のアンケート調査を実施し、利用者個々に合ったサービスの提供に努めました。
- ・職員の利用者情報の共有により、一貫した良質なサービスの提供に努めました。

(3) 職員の資質の向上

- ・研修会・連絡会には積極的に参加し、情報収集や人脈作りに努めました。
- ・アンケート調査等の結果を基に、接遇マナーの向上のための勉強会を実施致しました。
- ・全職員で検討班を作り、えぐもの将来像の検討を行い、法人の研究発表会に参加し、研究結果を発表しました。

平成27年2月28日(土)

テーマ：「えぐもの将来のあるべき姿を求めて」

3 研修

(1) 施設内

- ・併設の三恵ホーム施設内の研修会 (10回)

(2) 施設外

- ・中予地区老協研修会 (4回)

- ・ 県老施協研修会 (10回)
- ・ 全国老施協研修会 (1回)
- ・ デイサービス研究大会 (1回)
- ・ 介護支援専門員実務研修会 (3回)
- ・ 東温市介護支援専門員勉強会 (12回)

4 行事

- ・ 社会見学 (年1 1回)
- ・ 敬老演芸会 (9月)
- ・ 誕生会 (年1 2回)

5 実習生・ボランティアの受入れ

- ・ 東温高校生 介護実習 (6名)
- ・ 敬老ボランティア (5名)
- ・ 舞踊ボランティア (6名)
- ・ 川内中学生体験実習 (20名)

児童福祉施設
十全保育園

園長 小野 千代

平成 26 年度 事業報告

1. 経営方針

平成 26 年度は、27 年度の子ども・子育て支援法にむけて、施行のための説明会が行われ、準備が進められてきましたが、27 年 4 月からスタートした現在でも、未確定の部分が多く、特に予算では、まだ見通しが立たない部分が多々あります。保護者にとっては、保育そのものに対しては、大きな変化はないものの、その手続き等での不安があり、戸惑いもあるようです。

26 年度の保育においては、保育内容の充実と子育て支援に力を入れていきました。実践については、ひとつの問題が発生した時、職員全体に伝え合い、みんなの問題意識とし、行事等もねらいを重視し取り組みました。

保護者支援においては、特に障がいを持つ保護者支援に力を入れ、発達支援課の巡回相談では、両親共に相談に参加してもらうことで、子どもへの課題や願いを一致することで、精神的な部分の支援もできるよう心がけてきました。

園全体としては、民営化のため 24 年に新しく受け入れた職員も 3 年が経ちましたが、その職員も少しずつ経験を重ね、自分の保育に自信を持ちつつあり、また、経験のある職員は、さらに自分の役割を認識できる一年になったのではないかと思います。

今後も子ども達には質の高い保育を、職員一人一人においては、業務に対して充実感や達成感を得られる職場づくりを目指していききたいと思います。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・月 1 回の職員会で、子どもの状況、けがの報告を話し合い、周知徹底を図りました。骨折事故が 1 件ありましたが、他、大きなけがは、ありませんでした。

子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・各年齢の発達に合った保育については、保育の内容、保育の質を大切にしていきました。職員会で話し合った問題点や課題が、一人の職員の問題として考えるのではなく、自分の保育や子どもへの関わり方にも通じること、園全体の方針を確認しながら、討議を進めていきました。
- ・障がい児保育については、3 名の発達につまづきがあると思われる児童に加配保育士を申請し、支援を進めてきました。具体的な手立てを通じて、見通しや方法を伝えることで、生活においてできなかったことができるようになったり、友達関係が深まり、表情が明るくなったりと成長した面も確認できました。

(2)「確実な知識と技術」の修得

職員の資質向上

- ・三恵会の発表では「歯」をテーマとして、歯科衛生士を招いて講演を行ったり、「歯」に関する保護者へアンケートを取るなど「歯」の大切さを改めて、認識する機会を作ることができました。

職員の業務内容について

- ・それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めていきました。しかし、まだまだ積極的に意見を出したり、新しい取り組みを提案することが今後求められます。

看護師は、感染における情報提供に力を入れました。

栄養士は、今後の課題として、食育活動での保育士と連携が求められます。

(3)「堅実な経営」の実践

- ・消耗品・保育材料等の節約、使用の見直しを図り、削減を進めてきました。給食費に関しては、発注数の見直しや発注先を検討することで、節約をすることができ、その分、保育材料や積立に充てることができました。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・職員会(月1回) ・先任者会・主任会(随時)

(2) 施設外

- ・保育協議会部会(園長・主任・幼児・乳児・障がい児・給食)
- ・日本保育協議会主催研修 ・主任保育士研修
- ・給食担当者会議 ・人権教育研修
- ・東予連絡協議会 等

4. 行事实績(年間)

- 4月 入園式・園児健康診断・ぎょう虫検査
- 5月 親子遠足・野菜苗植え・種まき・家庭訪問
- 6月 歯科検診・保育参観(歯に関する講演実施)・夕涼み会
シルエット劇場観劇
- 7月 七夕会・プール開き・プラネタリウム見学
- 8月 プール大会・ライン引き・デイサービス交流
- 9月 敬老の日にちなんでの葉書投函
- 10月 運動会・お祭り集会
のま馬ハイランド遠足(年長児)・交通安全教室

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

施設長 岡田 慶子

平成26年度事業報告

1. 経営方針

平成26年度は、介護老人福祉施設ハートランド三恵（多床室40床）とハートランド三恵南館（ユニット型個室40床）の2つの施設として新たにスタートいたしました。人員配置基準等の課題も多々ありましたが、無難にスタートをすることができました。

まず、職員が笑顔でなければ良質なケアの提供ができないとの想いから、「心に届いていますか？あなたの言葉!!言葉美人になりましょう」のキャッチフレーズのもと、あいさつ運動に積極的に取り組み職場環境の改善に努めました。

また、昨年度より施設全体として取り組んでいる介護力向上については、更なる推進を図り、おむつゼロに向けて、個別に水分、歩行・運動、食事、排泄等のデータを整理・把握、分析する科学的介護を実践した結果、大きな成果を得ることができました。そして、その成果を全国老人福祉施設研究会議で発表することができました。

さらに、ご利用者がより自分らしく生活できるよう、各ユニットでは一人ひとりの状態を把握しその人に合った生活リハビリを継続することにより、ご利用者の自立支援に努めました。

通所介護においては、最低限の職員体制の中で、一人ひとりの職員が何をすべきかを考えて行動し、笑いの絶えないデイサービスとしてご利用者に満足していただけるように努めました。その結果として稼働率も大きくアップいたしました。

2. 重点課題、具体的な取り組み事項

(1) 心豊かに暮らし、感動を提供（誠実な福祉）

個別ケア、自立支援の充実

日中オムツゼロの取り組み

接遇の向上（素敵な笑顔であいさつを運動を継続）

各種マニュアルの見直しと作成

(2) 人材育成・職員の資質向上（確実な知識と技術）

科学的介護の実践

基本を守りつつ、既成概念にとらわれない質の高い支援の提供

分析力、行動力、責任感の持てる職員の意識醸成

各部署、1年毎の研究テーマに取り組む

(3) 稼働率の向上と事故防止活動の質の向上（堅実な経営）

在宅部門の稼働率アップと利用登録者数増への取り組み

リスクの原因追求・改善への手順を通じて、危機管理の強化を図る

介護保険制度改正の情報収集及び対策の検討

地域との連携を持ち、地域に愛される施設運営

3. 研修実施状況

(1) 施設内研修

全職員対象

- ・研修報告及び伝達講習(12回) ・テーマ別研修(10回)
- ・講演形式の研修(2回) ・各種指針に基づいた研修(6回)

部署毎

- ・実習生の受け入れ、業務の見直しと勉強会の実施
- ・月1回部署毎に会を持ち、改善や展望について意見交換
- ・2か月に1回ユニット毎に会を持ち、処遇の統一等の意見交換

(2) 施設外研修

- ・愛媛県老人福祉施設協議会、東予老人福祉施設協議会主催の研修会
- ・四国地区老人福祉施設関係研究大会
- ・四国ブロックカントリーミーティング
- ・四国老人福祉施設協議会セミナー
- ・愛媛県栄養士会、新居浜市栄養士会主催の研修
- ・新居浜病院栄養士協議会研修会 ・愛媛県栄養指導者研修会
- ・介護支援専門員の各種研修
- ・愛媛県、愛媛県東予地方局、新居浜市主催の各種研修会
- ・介護職員技術向上講習会 ・介護技術講習指導者養成講習会
- ・愛媛県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の各種研修会
- ・ユニットリーダー研修

4. 行事予定(年間)

(1) 毎月の共通行事

- ・神事・誕生会・趣味活動・音の広場・カラオケ大会・外出(各種花見、外食等)
- ・手づくりおやつ・なかよし喫茶(毎週1回)・お参りツアー・スライドシアター
- ・絵手紙教室・習字で遊ぼう・お琴で歌おう・合同レクリエーション・健康体操
- ・カレンダーづくり・握り寿司の日(11月～4月)

(2) 月別行事

4月	・花見	5月	・園庭での弁当給食・外出
6月	・お参りツアー・おやつ作り	7月	・夕涼み会・七夕祭・ワークキャンプ
8月	・夏祭り	9月	・敬老会・観月会・個別外出
10月	・太鼓台・個別外出・ミニ運動会	11月	・紅葉見物・園児と交流
12月	・忘年会・クリスマス会・しめ縄作り ・餅つき	1月	・新年会・七草粥・鏡開き・外出
2月	・節分・バレンタインデー・ふれあい訪問	3月	・ひな祭り・園児との交流・外出

5 . 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ・夏祭り ・地区太鼓台訪問（春、秋） ・十全保育園誕生会参加 ・夕涼み会
- ・敬老会 ・萩生保育園（七夕訪問、夏祭り） ・やすらぎの郷文化祭
- ・作品展（伊予銀行、十全総合病院） ・公民館活動への協力と交流
- ・外出行事による社会活動

(2) ボランティア活動

職員ボランティア活動

- ・地域清掃（年2回）

ボランティア受入状況

- ・ハートランドと手をつなぐ会（随時） ・音の広場（毎週金・土曜日）
- ・コーラスグループ ・三味線民謡グループ ・楽器演奏グループ
- ・傾聴ボランティア「クローバー」 ・十全保育園 ・萩生保育園
- ・グレース幼稚園 ・聖マリア幼稚園 ・中萩小学校 ・中萩中学校
- ・大生院中学校 ・新居浜南高校 ・写真（誕生月者の笑顔を撮影）
- ・お琴で歌おう（月2回） ・習字で遊ぼう（月2回）
- ・絵手紙教室（月2回）

(3) 実習生の受入状況

- ・新居浜南高校 ・愛媛医療福祉専門学校 ・四国中央医療福祉総合学院
- ・ニチイ学館 ・シルバー人材センター ・介護労働安定センター愛媛支部

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

施設長 越野 雅夫
副施設長 藤田 敏彦

平成26年度 事業報告

1. 経営方針

老健の本来の役割である「在宅復帰」に向け、前年度同様に第一目標を「加算型老健」(復帰率30%超)とし、推進委員会を中心に取り組んだが25%の所で頭打ちとなり、達成には至らなかった。次年度も引き続き地道な取り組みを続け、乗り越えなければならない課題である。

6月で開設20年を迎え、地域に根付いた施設となったが、老朽化も見られ、食堂テーブルの一部交換、園庭庭木の剪定および植え替え、自転車置き場の増設等を行った。

また、こうした厳しい環境の中で「選ばれる施設」になるために、前年に引き続き「人材育成」に傾注した。職員の資質向上による現場力の強化を図るため、各種研修会等への意欲的な参加や、各資格取得の実現に邁進した。取得結果は後記のとおり。

在宅復帰と稼働率は相反する所があり、うまく噛み合わなかったこと、近隣施設との釣り合いも考慮して調整した室料減額、消費税率改定による支出増等により、想定外の収支となった。

堅実な施設運営のため、次年度以降「在宅復帰」とともに「稼働率」についても貪欲に追求していきたい。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 誠実な福祉

1. 20周年記念事業

20周年記念DVD作成

蛭子神社周辺の整備は予算の関係で中止

2. 認知症ケアの充実

くもん学習療法の取り組み

認知症ケア指導管理士の資格を2名取得

3. 防災対策の充実

3階避難通路の整備は予算の関係で中止

事業継続計画書作成

防災訓練については、平成27年度へ繰越

4. 在宅支援機能の強化

通所リハビリテーション事業所のサービス内容について、

在宅生活支援に対応するためのプログラムへ変更

通所リハビリテーション事業所・居宅介護支援事業所・在宅介護支援センターの連携強化については検討半ば

5. 環境整備

自転車置き場の増設実施

食堂テーブルの購入実施

全館サッシ清掃実施

庭木の剪定実施

1階浴室外回り樹木植え替えの実施

(2) 確実な知識と技術

1. キャリア段位制度の導入

アセッサー資格1名取得 現在2名

愛媛県第1号の認定者誕生

2. 第5回オールジャパンケアコンテスト食事部門で、優秀賞を受賞

3. 各種研修会への積極的な参加

全国老人保健施設協会主催の研修会へ参加

愛媛県老人保健施設大会において研究発表

4. 目標管理に基づく業務の実施

職員個々に年間目標を設定

5. 資格取得の奨励及び支援

介護福祉士 4名

介護支援専門員 1名

(3) 確実な経営

1. 入所部門・通所部門の稼働率アップについては達成できなかった

2. 利用料金の改定

室料の値下げ実施

食費、日用品費、教養娯楽費の値上げ実施

3. 各種加算の取得等については、在宅復帰委員会を設置し検討

3. 研修等実績

(1) 施設内

身体拘束、リスクマネジメントについての、各々外部講師による研修会

法人による新人研修、階層別研修、研究発表会 定期的な自主研修(分担)

(2) 施設外

全老健協主催(基礎、中堅、実地研修、全国大会) 中四国老健協(ブロック)

県老健協主催(看護、介護、リハ、通所、相談、事務、ケアマネ、県大会)

県社協主催(新任職員、介護技術向上、ケアマネ) 日本通所ケア大会

虐待防止 認知症ケア スキルアップ タクティ-ルケア 在宅復帰

(3) 取得資格等

介護福祉士 介護支援専門員 介護実習指導者 認知症ケア指導管理士
介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者 第二種衛生管理者
学習療法士1級 タクティ-ルケア

4. 行事实績(年間)

	【入所】	【通所】
4月	花見(ミニドライブ)	
5月	外出(ミニドライブ)、外食	おやつ作り、手工芸
6月	菖蒲見物、ショッピング	ベタング大会、菖蒲見物
7月	七夕、ビアホール、ワークキャンプ	七夕、熱中症について、映画の日
8月	夏まつり(ハートランド三恵合同)	おやつ作り、リハビリ体操
9月	敬老会、観月会	敬老週間、おやつ作り
10月	秋季大運動会	運動会
11月	紅葉見物、ショッピング	おやつ作り、紙芝居、音楽会
12月	忘年会、クリスマス、餅つき	ゆず湯、手工芸、クリスマス、忘年会、餅つき
1月	書初め	新年会、初詣、
2月	節分(豆まき)	節分、おやつ作り
3月	ひな祭り、ショッピング	ひな祭り、おやつ作り、お出かけ(回転寿司)

* 神事、茶話会は毎月。誕生会は偶数月。 * 機関紙は年4回発行

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

ふれあい夏まつり、太鼓台訪問、大生院・中萩校区文化祭

(2) ボランティア受け入れ

音楽療法(週1回)、地域有志の歌レク(週1回)、大正琴、民謡等

(3) 実習生の受入

新居浜南高等学校

老人保健施設
希望の館

施設長 大西 健司
副施設長 重藤 眞一

平成26年度事業報告

1. 経営方針

2ヶ年計画の2年目を終えた現時点での目標達成状況と経営全般について報告する。

テーマ1:「安定した経営」の維持（入所稼働率2%アップへ）

結果:今年度は、昨年度よりも稼働率を下げってしまった。(95.5% 93.0%へ)

評価:「在宅復帰率」を上げていく過程での「稼働率」低下は、ある程度想定内のことであったが、昨年度は開設以来最高の稼働率を達成したこともあり、正直複雑な心境であった。(結局、加算がとれる在宅復帰率(30%)には届かず、加えて稼働率も2.5%ダウンすることとなってしまった。)

対策:このことについては、6月から居宅ケアマネが3名 4人体制に戻ることが何より効果的な支援策だと考えている。

テーマ2:「在宅復帰支援施設(30%)」を目指す（最終的には『強化型』へ）

結果:「在宅復帰率」はこの一年間で16.3% 23.5%にまでアップした。

(因みに、H27年4月末現在では27.4%にまで達している。)

評価:2ヶ年計画の期間内での目標達成は成らなかったが、もう少しの所まで漕ぎ付けてくれた職員の頑張りには、改めて心から感謝したい。

対策:この目標達成に特効薬はなく、今後も本人やご家族に対し根気よく説明しながら、在宅復帰に対する理解と協力を求めて参りたい。この点でも居宅ケアマネが4人体制に戻るとは有効な支援策であり、経営的にも大いに期待している。

その他、通所リハ事業については、1月のインフルエンザによる営業休止(4日間)の影響もあり、惜しくも目標の稼働率(70%)に届かず、今後課題を残した。

今後更なる進化のために、引き続き職員一丸となって努力したいと考えている。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践(利用者のQOLの向上)

- 「緊急時の本人、家族の意志確認」・・・書面による確認作業完了
- 「職員の説明力アップ」・・・何より人間関係作りが大切
- 「事故発生時の迅速且つ誠実な対応」・・・結果、トラブルはゼロ

(2)「確実な知識と技術」の習得(職員の資質向上)

- 「感染症から利用者を守る」・・・インフル、ノロ等の予防策強化
- 「脱水予防・口腔ケアの充実」・・・研修体制、経費面も含め体制を整備
- 「チーム力のアップ」・・・Drを中心に多職種協働による連携強化

(3)「堅実な経営」の維持(収益アップと経費削減)

- 「在宅復帰率アップ」・・・目標到達は目前(職員の頑張り感謝)
- 「収益アップへの努力」・・・感染症(インフル)により目標達成ならず
- 「危機管理意識の醸成」・・・とにかく「反復訓練」の実施が大切

3. 研修計画

(1) 施設内

新人研修 感染予防勉強会 認知症関する勉強会 褥創予防に関する勉強会
事故対策に関する勉強会 虐待・身体拘束のための勉強会 救急法 接遇研修
メンタルヘルス研修 看取りケア研修 排泄ケア研修 水分補給の勉強会等

(2) 施設外

三恵会の研修 介護支援専門員更新研修 介護支援専門員現任研修
老健中四国大会 ターミナルケア研修 口腔ケア嚥下障害
その他、虐待・身体拘束、事故防止、褥創、感染等に関する研修

4. 行事計画(年間)

- 4月 やかた祭り
- 5月 アニマルセラピー
- 6月 風船バレー大会
- 7月 七夕会、
- 8月 ビアホール・夏祭り喫茶
- 9月 敬老会
- 10月 運動会、地方祭
- 11月 文化祭(東温市)
- 12月 クリスマス・忘年会、お餅つき
- 1月 新年会
- 2月 節分
- 3月 ひな祭り喫茶

5. ボランティア・実習生

(1) ボランティア受入状況

趣味クラブ(月2回)、オカリナ演奏(月1回)、読み語りボランティア(月1回)
ショッピング(月1回)、ともしび会(月1回)、民謡教室(月1回)
サマーボランティア(年1回)、ウインターボランティア(年1回)、
傾聴ボランティア(月1回)

(2) 実習生の受入状況

学校等：十全医療学院 河原医療福祉専門学校 愛媛大学医学部
 広島医療保健専門学校
ホームヘルパー：ケアジャパン 東温高校
看護：河原医療大学校

通所介護事業所
おいでんや

館長 池内 貞二

平成26年度 事業報告

1. 経営方針

平成26年度は、年間を通して新規の利用契約者が18名、施設入所・死亡を含む利用中止者は11名という一年間でした。利用対象が高齢者ということで、昨日は元気に「また明日ね!」とお見送りしても、急変して... という突然のお別れが多い一年間だったように感じました。また、看取りの経験もさせていただき、介護職・看護職が共通の意識を持って利用者に関わることができ、ひと回り成長した職員集団になれたと思います。

経営面では、9月にプロジェクトチームが立ち上がり、収支改善に向けての具体的な目標(数値目標)を持つことができ、数値も少しずつ上向いてきました。

2. 重点課題と取り組み

1) 稼働率の向上と、安全・安心の確保

心配り、目配り、心配りに留意して利用者に関わってきました。そうすることにより、より多くの利用者の笑顔を引き出すことができ、利用者・ご家族からも「デイに行っていると安心する」とのお声も多数いただいています。

2) 職員の資質向上

複雑な介護保険制度を完璧に理解するのは大変むずかしいことでしたが、介護技術の向上、接遇態度の振り返りなど質の向上に努めました。

3) 独創性を加味したサービスの展開

毎月の買い物ドライブ・外食はみなさん非常に楽しみにされており、こちらも期待に沿えるように実施してきました。春と秋の個別外出については、秋は時間を短縮して午後からの出発に変更してみましたが、実施してみると時間的に慌ただしく、反省点・改善点が見つかり、次回に向けての課題を発見することができました。

また本年度は、初めての試みとして、土居でのみかん狩りや全館交流のスタンプラリーを開催するなどし、好評でした。

4) 地域交流・ボランティア

昨年に引き続き、地域の高齢者福祉センターとの交流の機会をいただいたと同時に、情報交換の機会もあり、お互いに、新しく珍しいボランティアさんと関わっていただくことができました。

5) 記録の充実

各種計画書・報告書には、多職種の職員で話し合い記録に反映してきました。
特に「いつもと違う」を探れるように、日々の行動を見守って記録に残しました。

3. 研修計画

1) 施設内研修

毎月1回の職員全体会・スタッフ会では、プロジェクトチームが立ち上がり具体的な目標を持たせたことで、今までより、より中身の濃い意見が出、話し合いができ、課題に対して前向きに取り組むことができました。

2) 施設外研修

26年度中にも複数の施設・事業所がオープンし、うち数カ所には見学にも行かせていただきました。また、新居浜市通所介護事業所連絡会にも所属し、数回開催された勉強会・講演会にも参加しました。

4. 行事計画

- ・毎月、買い物・外食・おやつ作り・音楽療法（ピアノ演奏）実施。
- ・7月・8月に実施予定だった社会見学については、先方と折り合いが合わず実施できず。

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・個別外出	・芍薬見物 ・個別外出	・菖蒲見物	・夏まつり（合） ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・個別外出 ・防火訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物 ・個別外出	・校区文化祭 ・紅葉見物
12月	1月	2月	3月
・もちつき（合） ・クリスマス会 ・忘年会	・初詣 ・書初め ・初釜	・カラオケ大会（合） ・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・防火訓練

多機能型事業所
わくわくクラブ

館長 池内 貞二

平成26年度 事業報告

1. 経営方針

多機能型事業所わくわくクラブは、障害を持たれる方々の地域生活を支援する多機能型事業所として、利用者一人ひとり及び地域のニーズに沿った支援を目指してまいりました。

さらに、障がい者支援関連法の主旨を踏まえ、法令遵守の重要性を理解し、わくわくクラブが障がいのある方にとって、安心して、生き活きと社会参加を果たせる場となるように、個別支援計画において、ニーズに沿った具体的な支援を実践してまいりました。

その結果、開設以来9年間で最高の利用者数を記録し、コミュニティハウス三恵の経営改善に大きく貢献しております。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 利用者獲得

特別支援学校高等部の実習生4人を受け入れた結果、4人の方が平成27年3月に利用を開始し、全職員が一丸となって安定的な利用に向けて支援しました。

また、放課後等デイサービスは平日の利用者が少ない傾向にあり、先進事業所見学や発達支援センター等訪問により、利用児童獲得に努めました。

(2) 支援内容の充実

利用者一人ひとりの課題は日々変化があるが、安心して地域生活を送ることが出来るための支援を、関係各機関と連携を取って進めました。特に計画相談制度における、計画相談員との連携による、利用者の希望に沿った適切な支援に努めました。一部の方が、まだ計画相談員がついておられませんが、順次連携をとってまいります。

わくわくクラブは、希望者には業者請負作業を通じての社会参加の機会を提供し、自主生産品の充実、さらには、スポーツや音楽、イオン作品展参加などの文化活動を支援メニューに取り入れて、より、豊かな社会参加の場の提供を実践しました。利用者の安心、安全、楽しみ、成長が実感できる生活の支援に努めました。

5月の愛媛県障がい者スポーツ大会には、10人の利用者が参加され、スポーツを通じて多くの方々との交流を楽しみました。

(3) ネットワークづくり

家族交流会は、4月と10月に開催して、家族の思いを話し合い、また、利用者・家族・職員の共同作業により交流を深めることができました。

その他、障がい者支援関連機関との連携を密にして、利用者が、より豊かな社会参加を実現していけるように支援致いたしました。

3 . 研修計画

(1) 施設内研修

- ・職員全体会・スタッフ会・フロア会(月1回)
職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修に参加しました。人材バンクの活用及び、新居浜市役所の出前講座等の外来講師による研修等を行いました。
- ・精神面や介護面での支援について、個人の発達段階、障がい、疾患を理解した上でニーズに沿った支援ができるよう研修を行いました。

(2)施設外研修

- ・近隣施設の見学や、他福祉施設や特別支援学校、各種セミナーに参加し、より実践的な研修に努めました。

4 . 行事報告

4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の交流会 (13家族が参加) ・お花見(弁財天公園) ・黒島公園外出 ・おやつ作り ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・東雲競技場でスポーツ大会練習 ・フライングディスク練習(市福祉センター) ・愛媛県障がい者スポーツ大会参加 ・医師健診 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物(ハローズ) ・ドライブ・外食 ・たまねぎ販売(やすらぎの郷) 	<ul style="list-style-type: none"> ・工場見学 (小松コカ・コーラ) ・七夕祭り ・夏祭り(合同行事)
8月	9月	10月	11月
<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ作り(プリン) ・マイントピア別子 ・マリンパーク外出 ・放課後デイサービス外出(科学博物館) ・医師健診 	<ul style="list-style-type: none"> ・滝の宮公園外出 ・消防訓練 ・清掃ウォーキング ・多喜浜体育館での運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族交流会 ・祭り見学(河川敷) ・生き生きフェスティバル 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠出外出 (まんのう公園) ・校区文化祭 ・紅葉狩り ・やすらぎ文化祭 ・医師健診
12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・十全総合病院クリスマスコンサート参加 ・クリスマス会 ・もちつき ・イオン作品展参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣(八幡神社) ・成人のお祝い(お祝い対象者4人) ・じゃがいも販売(やすらぎの郷) ・冬の七夕飾り出品 	<ul style="list-style-type: none"> ・おつかれさん会(レストラン八勝亭で食事) ・節分 ・カラオケ大会 ・医師健診 ・放課後デイ卒業生おやつ外出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭り ・おやつ作り(ケーキ) ・消防訓練 ・一年のお疲れ会 ・特別支援学校卒業生受け入れ開始

毎月、清掃ウォーキング・多喜浜体育館での運動・図書館利用等も行う。

放課後児童クラブ
ともだちパーク

館長 池内 貞二

1. 経営方針

(1) 働く女性の支援

子ども達の笑顔に励まされながら、安全に生活が出来る場所として、『安心して子どもを育てながら、働きたい』働く女性支援の原点に、子どもたちの成長を、保護者の方と一緒に喜びあいました。

(2) 交流の場

今年度は1名の卒業生を送り出しました。毎年、卒業生を送り出すことが出来、とても誇らしい思いです。保護者からも、「ともだちパークは、いろいろな地域から子ども達が来ているので、中学校に行っても知り合いがいて心強いです」と言ってもらい、子ども達のつながりが出来ている事を実感しました。

(3) 民間の児童クラブの特徴

早朝・延長時間の受け入れ・学校が台風などで臨時休校になった場合の受け入れ・長期休暇時の行事の充実・昼食の提供・高学年の受け入れ・他校との交流・高齢者との交流など、保護者のニーズに添った運営をしてまいりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 利用児童の定員確保・料金の見直し

- ・1ヵ月5日以上利用者36人以上の確保
- ・川東地区の小学校の新入生に向けて小学校健康診断の日に案内書を配布
- ・三恵会、十全グループの職員割引(登録料)を実施
- ・パンフレットの見直し
- ・重要事項説明書を説明し、利用者保護者の同意書を頂く

(2) 放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定

- ・来館時の手洗いやうがい、検温を行い健康管理の徹底
- ・流行性の疾病対策、室内などの消毒
- ・学校へ各学年の下校時間に合わせたのお迎えと共に交通安全
- ・一人ひとりへの言葉かけ配慮とともに保護者への連絡

(3) 遊びや宿題等の学習活動に関する援助

- ・玩具の安全確認や正しい遊び方など、一人ひとりに寄り添いながら集団遊びへの誘導
- ・来館後に宿題が取り組める環境を整え声かけを行いサポート

(4) 基本的な生活習慣の習得に関する援助

- ・自分の持ち物の片付けや遊んだ物の片付けの声かけ
- ・食事やおやつなどのマナーや来館時のあいさつなどの指導
- ・良い事・してはいけない事の区別がつくよう声かけ

(5) 発達支援児への対応

- ・家庭や学校との連絡を取りながら、学童での生活に慣れる工夫を行う

(6)職員の心構え

- ・フロア会を随時行い、共通意識を持ち取り組む
- ・研修会に積極的に参加し、指導員としてのスキルアップを目指す
- ・無駄のないよう意識を持つ

(7)交流

- ・にこちゃんパーク・おいでんやとの交流
- ・館内合同行事の参加

3．研修計画

- ・ 第 9 回 愛媛学童保育講座
- ・ 第 3 9 回 全国学童保育指導員学校（四国大会）

4．行事報告

- 1 学期 東浜公園・お話会（回転木馬）・河川敷でお花見
夏休み 合同行事～夏祭り・プール遊び・多喜浜体育館で運動遊び
東浜公園・陶芸の絵付け・押し花制作・お話会（回転木馬）
工作（紙皿ブーメラン・けん玉・メッセージカード・サイコロ）
お楽しみ会（すいかわり・かき氷など）・虫取り
ホットケーキ作り・高専出前講座『液体窒素の実験』
出前講座『たまごと楕円の積木あそび』『交通安全教室』
おいでんやと交流・にこちゃんパークと交流（誕生会・食事等）
- 2 学期 敬老の日プレゼント作り・生き生きフェスティバル作品作り
クリスマスの飾り付け・避難訓練・合同行事～もちつき大会
牛乳パック工作・やすらぎの郷文化祭と神郷地区文化祭に作品展示
おいでんやと交流・にこちゃんパークと交流（誕生会等）
- 3 学期 初詣（八幡神社）・合同行事～館長杯カラオケ大会・東浜公園
こま作り・牛乳パック工作・紙飛行機・なわとび・6年生お別れ会
おいでんやと交流・にこちゃんパークと交流（誕生会等）
- < 外出 > 東浜公園・黒島海浜公園・多喜浜体育館
- < 出前講座 > 液体窒素実験（高専）・「回転木馬」による本の読み聞かせ
たまごと楕円の積木あそび・交通安全教室
- < ボランティア > 木のおもちゃとお話会（松山市）・押し花
毎月 「おいでんや」との交流を実施
随時 「にこちゃんパーク」との交流を実施

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

館長 池内 貞二

平成26年度事業報告書

1. 経営方針

(1) 交流の場と居場所の提供

にこちゃんパークは予約無く気軽に利用でき、ゆったりとした雰囲気
が喜ばれ、子育て中のホッとした居場所として、利用していただく方
がますます増えてきています。

(2) 子育て相談

子育ての悩み・苦労・引っ越ししてきたの地域情報など、お母さん同士、
同じ悩みを持ち共感しながら、友だちの輪が広がって行く姿も良く見られ
ます。

上のお子さんが幼稚園に入園された後も下のお子さんを連れて来られ、
幼稚園での様子を聞かせていただき、幼稚園での悩みなどにも対応しまし
た。

(3) 情報の共有

新たに子育て支援事業所が増え、支援事業の広がりも実感しています。
市の子育て支援課を中心に、子育て支援事業所全7施設で、情報交換を行
い、交流を持つことで、よりよい支援に繋がりました。

2. 重点課題と具体的な取組

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

- ・週4日間、月・火・木・金曜日を基本として開所
- ・年齢に応じたおもちゃを準備し、安全に過ごせるように

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・市政だよりに開所の曜日・時間を記載していただき、電話での相談を
受ける。
- ・日ごろの対話を大切に行い、その都度援助が出来るよう心がけて
相談を受ける。
- ・相談状況の記録を残す。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

市役所のホームページに、にこちゃんだよりの掲載、川東の公民館や
十全総合病院（小児科）にもにこちゃんだよりをおかさせていただきました。

利用者様の口コミでも、新しいご利用者様も増えてきました。

- ・児童センター、子育て支援センターの予定表やお便りを掲示
- ・毎月の行事予定や最近の活動報告を写真で記載したお便りを発行
- ・子育て支援に関する新聞記事や講演会などの紹介

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・ つくってあそぼうで毎月季節が感じられるおもちゃ作りを紹介
- ・ 回転木馬（お話会）や大五木材（木の玉プール）のボランティアに定期的に来て頂く
- ・ 館内合同の行事やボランティアの行事に参加して頂き、館内を知って頂くと同時に子育てにゆとりが持てるような環境を作る

3. 研修計画

- ・ 市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業施設・全7施設の連絡協議会（年4回）に参加

4. 行事計画

めあて：季節を感じながら親子で楽しく過ごす

毎月：お話会（回転木馬さん）・誕生会（写真入り誕生カード）
つくって遊ぼう（工作）

随時：小学生・高齢者・障がい者との交流

昼食タイム（12:00 から 13:00）

	つくって遊ぼう	誕生会・その他
4月	かぶと	絵本・親子の触れ合い遊び・パネルシアター 小学生による誕生会（絵本・歌）風船遊び
5月	びっくり箱	手遊び歌・ペープサート・パネルシアター 小学生と一緒に食事
6月	紙皿時計	5周年記念品（先着20名配布） ドキンちゃん手作りキーホルダー 手遊び歌・絵本
7月	七夕飾り	木の玉プール（大五木材） 館内合同（夏まつり）・うちわシアター 大型絵本・手遊び歌・パネルシアター
8月	けん玉	小学生による誕生会（手遊び歌・爆弾ゲーム等） エプロンシアター・パネルシアター
9月	クルクルストロー	絵本・手遊び歌・避難訓練・3B体操 バルーンアート・風船で遊ぼう
10月	太鼓台作り	ふれあい遊び・絵かきうた・ペープシアター 障がい者との交流（さつまいも販売）
11月	ペットボトルマラカス	絵本・手遊び歌・校区文化祭に写真展示 小学生による誕生会（歌と踊り・劇）
12月	クリスマスケーキ	木の玉プール（大五木材）・絵本・手遊び歌 パネルシアター
1月	鬼のお面	年賀状・紙芝居・絵本・エプロンシアター 小学生による誕生会（踊り・歌・ふれあい等）
2月	おひなさま	親子昼食会・絵本・手遊び歌・ペープサート
3月	紙皿のフリスビー	木の玉プール(大五木材)・避難訓練 エプロンシアター・大型絵本・しゃぼんだま

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

施設長 小笠原 博子

平成26年度事業報告

1. 経営方針

平成26年度は経済の変動、消費税アップ等により施設運営が困難とされる中「明るく、積極的で建設的なマインドを持つ」を理念とし、「安定した運営」と「安心できるよりよいサービスの提供」の実現をめざし、具体的な目標を掲げ取り組んでまいりました。毎月事務より発信される稼働率実績、光熱水費、紙オムツ支払状況を明確に把握することで、職員一人ひとりが施設運営に関心を持ち、全員参加で安定した経営に繋げることができたと思います。又サービスの提供については、25年度に引き続き「自立支援」を実現するための「介護力向上講習会（科学的介護）」に参加し、利用者様が残された能力を生かし「水分」「食事」「排泄」「運動」を中心に生理的機能を自発的に高めることができるようサポートいたしました。この取り組みを通して、各部署が理念の浸透、意思統一、チームワークの重要性を改めて認識することができ、「適切な水分摂取」「歩行を中心とした運動」に於いては一定の成果を上げることができました。

又ユニットケアに効果的な24時間シートとケアプランを一体化し、科学的介護と融合することにより、個別ケアが明確化しサービスの向上に繋げることができたと思います。

短期入所生活介護事業では稼働率80%を目指し、委員会の充実を図ると共に緊急時の受け入れにも積極的に取り組み、84.4%の実績を出すことができました。今後も、ご家族、居宅ケアマネとの連携を密にし、新規及びリピーター獲得に向けて取り組み、利用者様が地域で安心して過ごす事ができるよう努力してまいります。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

地域の行事（運動会、芋たき会、文化祭等）に積極的に参加し、又「恵海祭り」「施設の運動会」には地域の方や近隣施設の方が多数来て頂き、交流を深めることができました。

各委員会の充実に力をそそぎ、委員会の決定事項が施設の運営に反映できるレベルまで成長することができました。

整理整頓、清掃に関してご家族より苦情を頂き、責任分担を明確にし環境整備に努めました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

職員（介護技術指導者の資格あり）が講師となって、介護技術講習会を毎月1回継続して実施し、今年度は「介護者に負担のかからない介護」を中心に、現場で即役に立つ技術を取得できるよう取り組みました。

第5回オールジャパンケアコンテストに1名出場し、食事部門で奨励賞を受賞する。生活相談員と海ほたるユニット（ショート）が合同で研究テーマに取組み、三恵会研究発表会に出場し努力賞を受賞する。介護福祉士3名合格。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

入所稼働率97.5%、ショートにおいては空床利用の活用、緊急依頼も柔軟に対応し、空き情報を細目にホームページにて発信する等の取り組みをし、目標を達成することができました。

在宅から入所をされるときの、流れが困難な場合があり今後の課題となった。

毎月主任会にて光熱水費等の経費節減と稼働率を報告・分析することで、職員の経営意識を高め実績アップに繋げることができました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

全職員対象

- ・緊急時の対応（1回） ・認知症ケア（1回） ・各種指針に基づいた研修（8回）
- ・職員の基本姿勢（1回） ・グループ討議（1回） ・介護技術講習会（10回）
- ・愛媛県喀痰吸引等研修の現地研修（介護、看護のみ）

(2) 施設外研修

- ・愛媛県主催認知症介護実践者研修及びリーダー研修
- ・愛媛県地域密着型サービス事業所各種研修会 ・青年経営者協議会主催研修会
- ・愛媛県・東予地区老人福祉協議会主催の各種研修会
- ・愛媛県喀痰吸引等研修会 ・愛媛県社会福祉法人経営者協議会主催の研修会
- ・日本福祉車両財団主催講習会 ・四国老施協主催セミナー
- ・ユニットケア推進協会フォローアップ研修 ・介護労働安定センター主催の研修会
- ・オールジャパンケアコンテスト ・西条保健所主催の研修会

4. 行事实績（年間）

(1) 毎月の共通行事

- ・誕生会（個別） ・ユニット活動（手作りおやつ、作品作り、個別外出等）
- ・選択食 ・モーニングサービス形式の朝食 ・3B体操 ・生け花

(2) 月別行事

- | | | | |
|-----|---------------------|----|-------------|
| 4月 | 花見・凸凹コンビ歌・踊り訪問 | 5月 | 若く明るく歌う会訪問 |
| 6月 | 観音大祭 | 7月 | ソーメン流し・スイカ割 |
| 9月 | 敬老会・高齢者顕彰・いもたき | | |
| 10月 | 運動会・太鼓台訪問・オライオン歌の訪問 | | |
| 11月 | ピンクベリー歌の訪問・手品訪問 | | |

12月 クリスマス・もちつき

3月 大正琴訪問

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流の実施

- ・恵海まつり ・運営推進会議(1回/2ヶ月) ・恵海運動会に近隣施設の方も参加
- ・自治会運動会、文化祭、芋たき会に参加 ・ニチイケアセンター祭りに参加

(2) ボランティア活動

職員ボランティア活動 地域清掃(年12回)

ボランティア受け入れ状況

オカリナ・マンドリン演奏、凸凹コンビ、若く明るく歌う会、百福クラブ、オライオン、琴衛会、ピンクベリーシニア - ズ、ミスターマリック、大西社中、聖カタリナジャグリングクラブ

グループホーム
かがやき

施設長 小笠原 博子

平成26年度事業報告

1. 経営方針

平成26年度は「笑顔で、共に、生き生きと」を理念とし、入居者の方と「一緒に生活する」という事をケアの基盤とし、入居者様にとって「かがやき」が居心地の良い居住空間となり、笑顔の多い日々を過ごす事ができるよう取り組みました。当日の天候や利用者様の様子を見て臨機応変にドライブ、散歩、ショッピング、外食等を実施したり、又趣味に合わせてユニットにて複数のレクレーションを並行して提供いたしました。栄養士と連携し季節に合わせた食事やおやつを目の前で調理し楽しんでいただきました。

しかし、1月に虹ユニットでインフルエンザ、2月に絆ユニットで嘔吐下痢に数名感染し、利用者様に多大なご不便をかけてしまいました。従来予防対策をさらに見直し、原因及び発症してからの対応について改善いたしました。また家庭的雰囲気重視の取り組みについても検討を重ねることで、感染症に対する職員の意識の向上にも繋がりました。

又、事業所内外の研修や講演会に積極的に参加し、職員の資質向上に努めると共に、ユニット会では個別のアセスメントを行い情報の共有化を図りました。平成26年4月より毎月認知症の勉強会を開始し、認知症介護実践者リーダー研修修了者を中心に、利用者様の心理的理解を深め専門職としての資質の向上に努めました。

地域との交流については、運営推進会議を通して地域の行事に参加し、近隣施設との交流も積極的にさせていただきました。今後も認知症になっても住み慣れた土地で、元気で笑顔の多い日々を送ることができるよう支援してまいります。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

地域の行事(運動会、芋たき会、文化祭等)に積極的に参加し、又「恵海祭り」や「運動会」に地域の方や近隣施設の方が多数参加して頂き交流を深めることができました。

「かがやき便り」を2回発行し、ホームでの生活の様子をご家族に報告することができました。

「うみかぜ」と合同で結成している各委員会の向上に力をそそぎ、委員会の決定事項が施設の運営に反映できるレベルまで成長することができました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

認知症実践者研修1名参加し修了する。「認知症の勉強会」では事例検討やKJ法等により職員の心理面を振り返り、援助に生かせるように努めました。

ケアプラン作成時センター方式のアセスメント表の一部を使用し、居室担当者を中心

に本人の生活の意向が反映できるようユニット内で検討を行いました。

第5回オールジャパンケアコンテストに1名出場。虹ユニットから「ターミナルに向けての食事介助」の研究テーマに取組み、三恵会研究発表に出場し努力賞を受賞する。

介護福祉士1名合格。

(3) 「堅実な経営」への取組み

「認知症専門ケア加算」の算定、介護福祉士の取得率が増加したため「サービス提供体制強化加算」のランクアップ可能となりました。

退所予定の想定が困難なため、新規入居までに時間を要する。定期的に待機者の情報収集を実施し、入院者が発生した場合には即対応できるように改善を行いましたが、今後の課題として検討が必要。

利用者様の健康状態の把握と、早期対応に心がけたため入院による長期空床を防ぐことができました。

3. 研修計画

(1) 施設内研修

- ・緊急時の対応(1回) ・認知症ケア(1回) ・各種指針に基づいた研修(8回)
- ・職員の基本姿勢(1回) ・グループ討議(1回) ・介護技術講習会(10回)
- ・愛媛県喀痰吸引等研修の実地研修(介護、看護のみ)

(2) 施設外研修

- ・認知症実践者・リーダー・管理者研修 ・愛媛県・東予老施協主催の研修
- ・愛媛県地域密着型サービス事業所各種研修会
- ・オールジャパンケアコンテスト ・西条保健所主催の研修
- ・愛媛県社会福祉協議会主催の研修会

4. 行事实績

(1) 毎月の共通行事

- ・誕生会(個別) ・ユニット活動(手作りおやつ、作品作り、個別外出等)
- ・選択食 ・モーニングサービス形式の朝食 ・3B体操 ・生け花

(2) 月別行事

- | | | | |
|-----|---------------------|----|-------------|
| 4月 | 花見・凸凹コンビ歌、踊り訪問 | 5月 | 若く明るく歌う会訪問 |
| 6月 | 観音大祭 | 7月 | ソーメン流し・スイカ割 |
| 9月 | 敬老会・高齢者顕彰・いもたき | | |
| 10月 | 運動会・太鼓台訪問・オライオン歌の訪問 | | |
| 11月 | ピンクベリー歌の訪問・手品訪問 | | |
| 12月 | クリスマス・もちつき | 3月 | 大正琴訪問 |

5 . 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流の実施

- ・ 恵海まつり ・ 運営推進会議 (1 回/2 ヶ月) ・ 恵海運動会に近隣施設の方も参加
- ・ 自治会運動会、文化祭、芋たき会に参加 ・ ニチイケアセンター祭りに参加

(2) ボランティア活動

職員ボランティア活動 地域清掃 (年 1 2 回)

ボランティア受け入れ状況

オカリナ・マンドリン演奏、凸凹コンビ、若く明るく歌う会、百福クラブ、オライオン、琴衛会、ピンクベリーシニア - ズ、ミスターマリック、大西社中、聖カタリナジャグリングクラブ

児童福祉施設
中萩保育園

園長 伊藤 民江

平成26年度 事業報告

1、経営方針

平成24年度民営化より3年目の節目を迎え、保護者の方から信頼される保育園づくりに努めてきた。移管後3年間は保育方針を継承するということになっていたが、手探りの1年目から徐々に保育内容の充実、行事の見直し、安全保育への取り組み等、なにより、子ども達が元気に喜んで登園できる環境づくりを職員一丸となり取り組んできた。3年目を終え、子ども達の姿、保護者の方々の表情からその成果が伺えるようになってきた。今後も「今、子ども達にとって何が大切か…」を常に考えながら保育をしていきたい。

また、26年度は、27年度から子ども子育て支援新制度が導入される準備期間として行政との話し合いが行われた。子育てをめぐる諸課題を解決し、安心して子どもを産み、育てやすい社会づくりを目指して創設されるものであり、その目的は、1、質の高い幼児期の学校教育・保育の統合的な提供。2、保育の量的拡大・確保。3、地域の子ども子育ての支援。が考えられる。核家族化や高齢化のため、地域での人間関係が希薄となり、家庭や地域での子育て力が低下していることが課題となる。今後、中萩保育園は、地域に根付いた保育園づくりを心掛け、子育て力低下をバックアップできるように取り組んでいきたいと思う。そのためには、保育士の資質向上を目指した研修、また、全国的に保育士不足が問題となっている現状なので、保育士が働きやすい環境づくりも大切だと考える。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践

保育環境に配慮し安心安全な生活の確保

- ・乳児の保育室出入り口に柵の設置。網戸の設置。
- ・ヒヤリハットを細かく記入し活用することによって、大きな怪我に繋がることはなかったが、噛みつき、ひっかきなどの件数が多かったので、乳児期の子ども達の発達を理解し、その年齢に沿った言葉かけや関わりの仕方を学習し、保育士自身の危機管理意識を高めるようにしていきたい。

また、毎日、保育室、廊下、階段などを消毒することで、感染症予防に繋がったと思う。保護者への情報提供としてプリントを配布、保育室入口に掲示などを細かく行った。そうすることで、保護者の感染症に対する意識が高まり予防に繋がった。今後も引き続き行っていきたい。

子ども達一人一人の健やかな発達を支援する保育

- ・子どもの成長には個人差があり、一人一人の発達を把握しながら焦らず丁寧に保育を進めている。今後も、身体的成長はもちろんのこと、心の成長を支援できるように手立てを考えていきたい。

専門機関、教育機関、他施設との連携

- ・発達支援課による巡回相談、就学前相談を受け、気になる子について相談をしたり、保険センター、子育て支援課と連携し、子育て能力の低下が気になる母親支援を行ったり専門機関との連携は大切にしている。
また、26年度より年長児を対象に発音検査、眼科検査が行われることになった。
- ・老人施設「むつみの家」と連携をとり、むつみの家での避難訓練に参加し災害時の協力関係を話し合った。また、夕涼み会、クリスマス会などの行事に招待したり、慰問に行ったり交流を深めている。
各機関との連携は今後も大切にしていきたい。

(2)「確実な知識と技術」の修得

職員の資質向上

- ・日々いろいろなことに直面しながらも、職員一人一人は、前向きに取り組んでいる。今後、保育士自身も専門的な知識はもちろん社会人としての知識を身につけられるよう研修の機会を持っていきたい。

「保育過程」「年間行事」の見直し

- ・保育過程は、子どもの成長を支援する大切な柱になるもの、その年の保護者の考え、子どもの状態を見極めながら、今後も内容を検討していきたい。年間行事についても、ねらいを持って取り組めるよう考えていきたい。

障がい児保育への取り組み

- ・愛媛県障がい児研修大会では、「保育園生活において主体的に活動するために」と題し、特別な配慮を必要とする子どもへの視覚的支援について発表を行った。兵庫教育大学の小川先生より高い評価をいただくことが出来た。専門性を生かした保育が必要になっていると感じる。

働きやすい職場の環境整備

- ・保育士離れが問題になっている昨今、やりがいのある素晴らしい職業だと感じられるよう環境整備は今後も続く課題だ。

(3) 「堅実な経営」の实践

- ・途中入所15名を受け入れ、また、26年度は、延長保育平均利用者6名を確保でき、安定した経営に繋がった。当園は、パート勤務の母親が多いため、27年度も延長保育の利用者確保が課題である。

3、研修計画

(1) 施設内

職員会、給食検討会、けがの報告、安全対策委員会、先任者会など

(2) 施設外

保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修会

保育協議会部会(園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食)

三恵会本部主催の研修

4、行事实績(年間)

- 4月 入園式、家庭訪問、園児健康診断、園児蟻虫検査、年長児発音検査
- 5月 遠足、年長児眼科検査
- 6月 保育参観、夕涼み会、シルエット劇場観覧、プール開き、歯科検診
- 7月 プラネタリウム見学、七夕集会
- 8月 プール大会、バイキング給食
- 9月 ちろりん劇場観覧、敬老の日がけ投函、運動会
- 10月 お祭り集会、園児健康診断、園児蟻虫検査、交通安全教室
- 11月 中萩小学校文化祭、七五三、職場訪問、ブーク人形劇観覧
- 12月 歯科検診、保育参観、おもちつき、クリスマス会
むつみの家クリスマス会参加、新入園児申請書受付、在園児家庭現況届
- 1月 もうすぐ1年生撮影
- 2月 節分、たのしいおあつまり(発表会)、記念撮影
- 3月 交通安全教室、お別れ遠足、お別れ会、卒園式
毎月実施...誕生会、避難訓練、身体測定、異年齢児交流、食育活動

5、地域交流、ボランティア、実習性

(ア) 地域交流状況

ちろりん劇場、夕涼み会、運動会、発表会などに地域の方を招待した。

(イ) 実習生受け入れ

香川短期大学(1名)

(ウ) 体験学習の受け入れ

中萩小学生(24名)、中萩中学生(48名)

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

施設長 佐々木 文良

平成26年度 事業報告

1. 運営方針

利用者の身体面や精神面の低下により支援が必要になったり、新たな利用者においても介護度を持った方が多くなっていくなど自立した生活が困難になった方の増加に伴い、利用者一人ひとりの有する能力に応じた処遇に向け、デイサービスなどの介護サービスの利用や園内での諸行事を通じての健康維持や日常生活が自主性をそこなくことなく安心して穏やかに送れるように支援に努めてまいりました。

また、医療機関や介護福祉施設と連携を図り、生きがいを持って日常生活を送れるよう自立支援に必要なサービスを提供し、利用者の生活力を高め社会参加の助長を継続して行う事を指定管理者として支援してまいりました。

2. 重点課題と具体的取り組み実績

(1) 利用者本位の支援の充実(誠実な福祉)

利用者一人ひとりの心身の状態に合わせた処遇計画を作成し、掃除、洗濯、着替えなど日常生活の動作を可能な限り自分で行えるように努めました。

利用者の朝礼において唄、軽体操の実施による健康維持を図りました。

充実した園生活を過ごしていただけるよう、クラブ活動、カレンダー作り、レクリエーションの実施や他の団体が主催する各種イベントなどに出展する創作活動の実施など積極的な参加に努めました。

共同作業で庭木の手入れ、草引きや菜園での花や野菜作りにより自立した生活を促すよう努めました。

嗜好調査を実施し入所者の希望を考慮し、美味しく楽しく食事ができる献立内容で提供するように努めました。

支援サービスの向上のため、第三者評価機関の評価を受審し問題点の可視化により利用者へのサービス向上と業務改善に努めています。

(2) 地域社会に貢献できる施設づくり(誠実な福祉)

地域交流が参加可能な行事の開催に努めています。

金栄小学校や公民館活動における音楽会、文化祭、運動会などに積極的に利用者が参加するよう努めました。

(3) 地域の社会福祉資源の有効活用(確実な知識と技術)

慈光園での生活が困難となった利用者に対して協力医療機関や介護関係事業所の協力を得て、その人に適した他施設への処遇替えを行えるように努めました。処遇計画に基づき、デイサービスなどの介護サービスの利用により、心身の健全化に努めました。

(4) 人材育成の推進(確実な知識と技術)

勉強会の開催や老人福祉協議会などが主催する各種研修会に参加し知識と技術の向上と福祉資格の取得を図ってまいりました。

ケース検討会や事故防止委員会等に置いて個々の問題解決を図ることにより職員の資質の向上に努めました。

(5) 効率的な施設運営(堅実な経営)

物品等の適正な在庫管理に努めるとともに購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。

新居浜市による委託事業として四国電気保安協会とのデマンド監視契約により電気使用量状況を把握し、職員及び利用者に節電を呼び掛け、電気料金の減少を見ました。

利用者のデイサービス利用時や、外出時の食事が不要な場合に欠食届出を行うよう徹底を図るように努めました。

3 . 研 修

(1) 施設内研修

職員全体会での研修

個人情報保護の保護、プライバシー保護、感染症事故防止対策、各種研修報告会等

(2) 施設外研修

四国老人福祉協議会、愛媛県老人福祉施設協議会、東予老人福祉施設協議会主催の研修会

愛媛県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の研修会

西条保健所主催の研修会

4 . 行事報告

4月 草引き

5月 芍薬見学・草引き・花の種まき・庭木手入れ

6月 菖蒲見学

7月 七夕飾り・ラフターヨガ

8月 盆踊り大会

9月 敬老会・壁画作成

10月 ふれあい大運動会・生き生きフェスティバル・お買い物ツアー

11月 風船バレー・グランドゴルフ

12月 クリスマスコンサート・餅つき大会

1月 初釜・新年福笑い大会・冬の七夕参加

2月 節分・新年お楽しみ会

3月 チューリップ観賞会・花見歩行会

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・金栄校区盆踊り
- ・金栄校区文化祭
- ・春秋の太鼓台訪問
- ・金栄小学校音楽会
- ・いきいき幸せフェスティバル
- ・金栄小学校ツリー点灯式
- ・ウエイトリフティング餅つき大会

(2) ボランティア受入

- ・書道クラブ
- ・唄クラブ
- ・西中学校
- ・民謡同好会
- ・上部老人センター大正琴演奏グループ
- ・絵手紙クラブ
- ・さくら乳児園
- ・金栄小学校
- ・三味線グループ
- ・お話会クラブ
- ・十全保育園
- ・一宮グループ

平成26年度事業報告説明現行

新居浜市立慈光園

1、運営方針

利用者の身体的・精神面の低下により、自立した生活困難者の増加や、新規利用者においても介護度を持った方が多くなり、利用者一人ひとりの状態に応じた介護サービス利用や園内での行事を通して健康維持や自主性をもって日常生活が穏やかに送れるように支援してまいりました。

また、医療機関や介護施設との連携を図り、生きがいを持って生活が送れるようサービスを提供し、利用者の社会参加への助長を継続して支援してまいります。

2、重点課題と具体的取り組み実績

「誠実な福祉」につきましては

- (1)利用者本位の支援の充実として、一人ひとりの心身の状態に合わせた処遇計画に基づき日常生活での掃除・洗濯など可能な限り自分で行えるように努めました。また、第三者評価の受審結果に基づき改善を要する事項の取組を行いサービスの向上に努めております。
- (2)地域社会に貢献できる施設づくりとして、地域との交流として、盆踊り大会の開催や公民館活動などへの参加を通じて地域社会に貢献できる施設づくりに努めてまいりました。

「確実な知識と技術」につきましては

- (3)地域の社会福祉資源の有効活用として、慈光園での生活が困難となった利用者に対し、協力医療機関や三恵会を中心とした介護関係事業所などの協力を得て、施設替えを行ってまいりました。
- (4)人材育成の推進として、勉強会や老人福祉施設協議会などが主催する研修会へ参加をし、知識と技術の向上に努めました。

「堅実な経営」につきましては

- (5)効率的な施設運営として、新居浜市による委託事業として四国電気保安協会とのデマンド監視契約により電気使用量状況を把握し、照明、空調機器等の適正利用により電気料金の減少に努めました。また、利用者の外出等による食事の不要届け出を入所者に呼び掛け無駄の排除に努めました。

3 研修、4 行事報告及び5 地域交流、ボランティアにつきましてはお目直しをお願いいたします。

以上